

グリーン・トピックス

北海道立林業試験場

No.20

ハマナス園芸品種の開発



a ハマナス



b ルブリフォリアバラ(♀)×ハマナス(♂)



c ノイバラ(♀)×ハマナス(♂)



d シロバナヤエハマナス(♀)×ハマナス(♂)

ハマナス(写真a)は砂丘海岸の植生として、また「北海道の花」として親しまれているだけではなく、道内産緑化樹木の中では、生産量および道外への払い出し量が最も多い重要な樹種です。しかし、道内で生産されているハマナスのうち、海外で育成された西洋ハマナスを除けば、園芸品種として普及しているものはありません。

そこで、観賞価値のより高い花を持つハマナス園芸品種の開発を目指し、ハマナスと国内外から集めたバラ属他種との間で人工交配を行いました。ハマナスと他種の間にも生まれた雑種は、ハマナスよりも多くの花を着け、花の形や色、大きさ等は両親の中間的な形質を示します(写真b、c、d)。現在、これらの中から、優れた形質を持つ個体の選抜を進めています。

(応用樹木科)